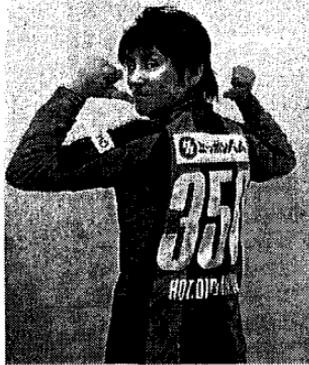


セレッソ大阪を支援

三晃 商店 自社プラ浸透、地元活性化へ

佛三晃商店(大阪市西区川口4-5-2、武田専務社長)は、3月1日付で大阪サッカークラブ(大阪府東住吉区、藤田信良社長)とサポーターティンクカンパニー契約を締結。リーグの雄・セレッソ大阪の地元企業として自社ブランド「Hot Dip SANKO」(商標登録申請中)の認知度向上はもとより、広く地元・大阪の活性化へ側面から支援していく構えである。



武田透専務

同社は昭和34年、故・武田進氏が創業。昭和47年、同社を含む5社で協業組合「同セスター」を通じて仕入れ。

大阪ねじセスターを設立し販売する傍ら、旧国鉄からドブめっき付きポルト・ナットを受注し好評だったことから溶融亜鉛めっき付きねじ製品の在庫販売を営業の柱に据えている。古くは「ドブの三晃」として得意先に親しまれ、ここ数十年は「Hot Dip SANKO」を標榜。平成18年にはR.O.H.S規制をクリアした新溶融亜鉛め

っき付き締結部品を販売するなど、一貫して溶融亜鉛めっき(JIS H8641、ドブめっき)付きねじ製品の幅広い品揃えを業務をおこなっている。

今回の案件は、元々熱烈なセレッソファンである武田透専務が大阪サッカークラブ(佛)に近い関係者と出会ったことからスタート、とんとん拍子に話がまとまった。

セレッソ大阪は、1957年大阪本社、在阪工場のサッカー愛好社員により創部されたヤンマーディーゼルサッカー部を母体に、93年に設立された大阪サッカークラブ(佛)のもと運営が引き継がれ、94年JFL優勝、Jリーグに昇格したクラブチーム。パートナーカーンパニーにはヤンマーやニッポンハム、大阪市ほか多数の在阪企業がオフィシヤ

ルスボンサーも含め名を連ねており、佛三晃商店は3月1日現在13社目のサポーターティンクカンパニーとして仲間入りをした。

セレッソとは大阪の「市花」であるさらさら、「さらさらさら」の歌で知られ日本を代表する花でもある「さら」をスペイン語で表現、冠した。ホームは長居(大阪府東住吉区)のキンチョウスタジアム。

近年の同チームは天皇杯での準優勝(2001年、2003年)後、若干低迷し07、09年はJ2でのプレーを余儀なくされてきた。しかし09年のリーグ戦2位で再びJ1復帰。昨2010年は3位と好成績を収めたことから今期はアジア・チャンピオンズリーグ(ACL)の出場資格を得、先におこなわれたACL初戦は2-1で勝利。アレマ・

インドネシア戦で貴重な勝ち点をあげるなど健闘している。

今回のサポーターティンクカンパニー契約締結により、キンチョウスタジアム内に「Hot Dip SANKO」の看板が掲げられたり、電光掲示板でも紹介される。また、佛三晃商店サイドも社員の名刺や広告にセレッソ大阪のエンブレムやロゴの使用が認められている。

こうしたことから武田専務は「元々、母体のヤンマーは機械部品と縁がある。今回の契約締結を機に自社ブランドイメージを高め、業界内外で指を賣い」に繋げたい目的は勿論あるが、地域活性化、地元貢献という意味合いも大きい。とにかく一度、長居スタジアムにお越しいただき、生でセレッソ大阪の試合を観てい

ただきたいと締め括った。なお、大阪サッカークラブ(佛)では50番以降99番までの番号を付けたユニフォームを登録制で外販しているが、武田専務は個人でSANKOに因み「Solo」番を登録、背中の選手名が入る部分に「Hot Dip SANKO」と記されたユニフォームを着て、セレッソの応援に駆けつけるという。(写真)

セレッソ大阪のオフィシャルホームページ、3月1日付のクラブニュース欄には「同社とのサポーターティンクカンパニー契約締結のお知らせ」として、契約内容や担当者名、同社の住所、会社紹介などとともに武田専務のコメントが左記のように紹介されている。

この度、このお話をいただき誠に嬉しく思っております。「大阪」がもっとも

っと盛り上がりないと日本経済も盛り上がりません。ねじを通じて人と社会の結びつきのお役に立ちたいとの理念の下に、セレッソ大阪を通じて大阪の盛り上がりには微力ですがお力添えできればと思っております。リーグ・ACL優勝目指して一緒に応援させていただきます。よろしくお願致します。